

# 営農ウィークリーNEWS

## 水稻の「イネカメムシ」にご注意ください!!

速攻的な効果を期待される場合は、乳剤、フロアブル剤、水溶剤等を使用してください!

水稻の**イネカメムシ**は、新種ではなく、古くから生息しているもので、ここ数年、被害が拡大傾向となり、問題視されています。本州、四国、九州、南西諸島など分布するイネ科植物の害虫として知られています。早生品種では走り穂が出ると本田への侵入が始まり、吸汁加害します。**イネカメムシ**は斑点米を発生させるだけでなく、出穂期に籾の基部や茎の加害により**不稔**を生じさせ**減収**となる恐れがあることが知られています。

国内では、茨城県、千葉県、静岡県、愛知県、岐阜県、京都府、三重県、滋賀県、山口県などで発生が報告されています。京都府では、2018年に注意報が発表されており、昨年では、兵庫県において、不稔症状により大幅な減収となる被害も報告されています。

JA管内の西部地域でも**イネカメムシ**の発生が確認されました。発生地域では、出穂直後の吸汁加害を防ぐため**出穂前の防除**が必要です。



**イネカメムシ**とは  
体長は12~13mmで黄褐色に暗褐色の点刻が密生しています。  
4月頃から越冬地で活動を開始し、水稻の出穂前から圃場に侵入します。  
他のカメムシ類と防除法が異なりますのでご注意ください!



**注意!!**  
この写真は、ホソハリカメムシです。  
体長は10.5mmでイネカメムシよりも細長く側角が長いです。よく似ていますが、別種なので通常のカメムシ類の防除法で防除を行ってください。



—TAC information—

**花背支店久多地域・北山友禅菊**



花背支店管内の久多地域で「北山友禅菊」が満開を迎えています。「北山友禅菊」は、京都市左京区久多地域に自生していた野生菊であるチョウセンヨメナ（キク科の宿根草・野菊と呼ばれるもののひとつ）の系統の中から特に強健で栽培しやすい系統を選抜したもので、1997年から京都市左京区久多地域で栽培されています。現在、地元の方々により、休耕地や遊休農地などを活用し、観賞用に栽培されています。

作物名 水稻  
病害虫名 斑点米カメムシ類

京都府病害虫防除所長  
(公印省略)

- 1 発生地域 府内全域
- 2 加害時期 出穂後収穫期まで
- 3 発生量 平年比多い
- 4 防除時期 穂揃期及び傾穂期
- 5 注意報発令の根拠

(1) 7月中旬に行った水田内のすくい取り調査の結果、**府内全域の確認ほ場率は20.0%で平年比やや多く、平均虫数は0.9頭で平年比多い**(表1)。

主要な発生種は、クモヘリカメムシ(写真1)、ホソハリカメムシであった。

表1 斑点米カメムシ類調査結果(7月第3~4半旬:本田20回振りすくい取り調査)

	山城		南丹		中丹		丹後		京都府	
	確認ほ場率	虫数								
R4年	16.7	1.2	22.2	1.2	0.0	0.0	33.3	1.0	20.0	0.9
平年比	並	やや多	並	多	並	並	多	やや多	やや多	多
平年	26.7	0.7	16.7	0.3	10.0	0.2	11.1	0.3	15.7	0.4
R3年	50.0	1.8	33.3	0.6	16.7	0.3	11.1	0.1	26.7	0.6
R2年	0.0	0.0	33.3	1.0	16.7	0.2	22.2	0.6	20.0	0.5
R元年	66.7	2.0	22.2	0.2	16.7	0.2	33.3	1.4	33.3	0.9
H30年	16.7	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.3	6.7	0.2
H29年	16.7	0.2	0.0	0.0	16.7	0.3	0.0	0.0	6.7	0.1
H28年	16.7	0.2	11.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.1
H27年	16.7	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.3	6.7	0.2
H26年	16.7	0.2	44.4	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.3
H25年	33.3	1.2	0.0	0.0	33.3	0.5	11.1	0.3	16.7	0.4
H24年	33.3	0.7	22.2	0.2	0.0	0.0	11.1	0.1	16.7	0.2

\* 虫数は、1ほ場当たりの平均値。

(2) 7月中旬に行った畦畔のすくい取り調査の結果、府内全域の確認ほ場率は40.0%で平年比やや少なく、平均虫数は9.0頭で平年並。

主要な発生種は、アカスジカスミカメ(写真2)、アカヒゲホソミドリカスミカメ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシであるが、中でもアカスジカスミカメが多く捕獲された。

(3) **アカスジカスミカメの予察灯(60W)への誘殺数(6月第1半旬~7月第3半旬の合計)は、京田辺市で28頭(平年3.5頭)、亀岡市で145頭(平年:47.4頭)で平年比多く、京丹後市で122頭(平年:97.2頭)で平年比やや多い。**

(4) **アカヒゲホソミドリカスミカメの予察灯(60W)への誘殺数(同上)は、亀岡市で99頭(平年:20.7頭)で平年比多く、京田辺市で5頭(平年:23.9頭)、京丹後市で12頭(平年:61.4)で平年比少ない。**

(5) **クモヘリカメムシの予察灯(60W)への誘殺数(同上)は、亀岡市で4頭(平年:0.3頭)、京丹後市で8頭(平年:0.4頭)と平年比多い。**

6 防除上の留意事項

(1) 耕種的防除

斑点米カメムシ類はイネ科雑草の種子を餌にする。したがって、水田周辺のカメムシ類の生息密度を下げるためには、**畦畔の草刈りを行うことが有効である**。草刈りは、イネが**出穂する2~3週間前と出穂直前の2回行うと効果的**である。作業の都合上、**1回で済ませる場合は、必ず出穂の10日前までに草刈り等を済ませる**。

**出穂期に近づきすぎたから行うと、カメムシ類を水田に追い込み、かえって逆効果となる。**

**水田内のイネ科雑草は、カメムシ類の水田への侵入を助長するので出穂前に除草する。**

(2) 農薬による防除

カメムシ類の密度が高い水田では、**薬剤による防除を穂揃期と傾穂期の2回行うこと**が望ましい。

農薬の散布にあたっては散布適期を確認し、周辺作物に飛散しないよう十分注意する。また農薬の選択にあたっては、使用基準を遵守して適正に使用する。**特に、特別栽培米に取り組んでおられる方は、普及センター、JA等と相談してください。**

なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬登録情報検索システム」を参照のこと (<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)。